



# 会報 たま

公益社団法人日本山岳会  
東京多摩支部  
2019年11月7日発行  
第38号

## 楽しい会報を作しましょう！

会報委員会委員長 野口 いづみ

すでに「たま通信」37号でお知らせしましたように、会報が刷新されることになりました。とりあえず、私が会報委員会委員長として、村岡庸こ委員と加藤真美委員とともに会報の作成に当たります。これからも委員を募集しておりますので是非ご参加ください。なれない業務で、皆さまにはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしく願いいたします。新たな会報のコンセプトなどは次のようです。

### タイトルの変更

タイトル「たま通信」はメールで発信されている「たま便り」と混同しやすく、以前、本部の調査で「会報が支部HPにアップされている支部」のリストから多摩支部が漏れていたことがありました。「通信」という言葉はネット通信を想起させる時代になっているせいと思われます。「会報」であることが分かりやすいように、「会報たま」にします。

### コンセプト

支部の重要事項を優先させ、幹事会の決定を正確に伝えるように紙面づくりをします。また、幹事会に校正原稿をメールで送りますので、幹事は発行前に内容を把握できます。幹事や担当者が担当部分をチェックすることで、誤植を減らすこともできます。校正の都合上、日程がタイトになりますので、ご協力をお願いいたします。

### ビジュアル化

活発な多摩支部の活動を分かりやすく伝え、会報が広報のツールになるように、ビジュアル化したいと思います。Web会社に総カラーで印刷を依頼します。費用的には従来と大差なく済ませられます。新たに「ミニレポート」として、個人山行を写真と短い文でご紹介するコーナーを設けましたので、投稿をお待ちしています。花、風景の写真、スケッチなども、是非、お送りください。その他、書評やエッセー、ご本の出版情報などもお寄せください。楽しい会報を一緒に作りましょう。



## 会議報告

### 2019年度支部合同会議報告（9月28-29日開催）

事務局 山本憲一

例年通り、本部役員と全国33支部の支部長・事務局長と高尾の森づくりの会代表が集まり、四ツ谷駅前のプラザエフで2日間に渡り支部合同会議が開催された。

最初に古野会長が挨拶し、会報「山」7月号で方向を示したが、花谷氏の20代中心メンバーによるヒマラヤキャンプ、遭難対策、120周年に向けて山岳文化の伝承に力を入れていきたいと述べた。

会務報告として、支部事業委員会の坂井副会長が支部助成事業として8支部に67万円の補助金支給を決定したこと、登山教室指導者養成講習会の経過、気象予報士（主に猪熊氏）が講師を務める「山の天気ライブ授業」を支部で開催の予定などを報告した。続いて遭難対策委員会の山本副会長が登山計画書提出状況と事故事例について、計画書は個人山行を含む全ての山行の計画書を出すこと、事故報告も必ず提出することなどを述べた。古川常務理事から会計報告書作成法と寄付の取り扱いについて報告された。

120周年記念事業として、永田常務理事から、山の古道歩きが提唱された。すでに調査された古道を「見える化」するとともに、踏査発掘して発表する「日本列島古道踏査（仮）」事業を行う。記念事業委員会重廣委員長から、花谷氏のヒマ

ラヤキャンプ、グレート・ヒマラヤ・トラバース企画、カンチェンジュンガ・トレッキング、エベレスト登頂50周年記念事業、機関紙などの資料のデジタル化が提唱された。栃木支部の渡辺支部長から、日本・エクアドル外交関係樹立100周年記念友好合同登山隊報告がされた。家族登山普及委員会の野沢副会長から家族登山の全国ネットワーク構築と普及の件が報告された。他に、12月7日のJAC年次晚餐会と2020年5月に宮崎で開催される全国支部懇談会の紹介があった。

質疑応答として、山に関する情報提供としてSNSによる発信について日本山岳会の対応を問う質問があり、フェイスブック、インスタグラム、ツイッターの活用をしていること、募集情報をSNSで情報提供し、本部のHPにつなげていると返答があった。

### 準会員も支部役員・委員として支部活動にご参加を！

支部長 野口いづみ

日本山岳会では平成28年10月に準会員制度を発足させました。平成28年度（平成29年3月まで）に入会した準会員は満3年を経た来年の令和2年3月に通常会員に移行するか、退会するか、選ぶこととなります。28年度に入会した準会員は34名で、このうち東京多摩支部に所属する者は1名（横須賀市在住）です。登山教室4期生は入会手続きが平成29年4月以降なので、切り替え時期は再来年（令和3年）の3月になりますので、お間違えないように。

さて、本部では準会員制度検証プロジェクトチームを発足させ、私も委員として参加しました。2018年11月の調査では準会員数は202名で、このうち約3割の60名が東京多摩支部に所属する者でした。いわば、全国的に見てダントツに多摩支部の準会員数が多いこととなります。現在で

はさらに71名に増加し、支部会員数の23%を越えています。

東京多摩支部では通常会員が主に高齢化によって毎年20名以上の方が退会され、それを上回る準会員が入会されているものの、役員候補者が不足する事態になりました。プロジェクトチームで準会員制度の見直しを行い、規約を、「準会員は支部役員（支部長を除く）に就任できる」と改正しました。また、準会員から通常会員への移行が簡略化されました。このような背景から、多摩支部の人材登用プロジェクトチームは、10月頭に、登山教室の修了生に対して、各期から1～2名を役員・委員候補者として選出してほしい旨、連絡しました。登山教室修了生に限らず、準会員の皆様にも是非、役員・委員として支部活動を担っていただきたいと思う次第です。

## 10周年記念式典に参加しましょう！

2020年1月18日に東京多摩支部設立10周年記念式典がJR武蔵境駅前のスイングホールで開催されます。午前10時半から2階のイベントホールでJAC前副会長の重廣恒夫氏が講演され、13時から最上階の9階のレセプションホールで懇親会が開催されます。重廣氏は1973年のエベレスト南西壁登山隊に参加したのを皮切りに、2016年までに13回のヒマラヤ登山隊に参加、1966年に日本百名山を123日で連続踏破されました。ご講演では、「昆虫採集から始まった山登り」から、ヒマラヤを目指すようになった経過とトレーニング、数々のヒマラヤ登山、ヒマラヤ登山塾、100名山に安全登山など、興味深いお話をされます。



重廣恒夫氏

深いお話をされます。

スイングホールは武蔵野市の新しい公共施設で、公益法人の本支部には優遇処置がありました。ケータリングのお料理は美味で有名です。参加費はホテル開催よりかなりリーズナブルに設定されますので、どなたも参加しやすいでしょう。皆様のご参加をお待ちしています。

(野口いづみ)



### メール会員の募集

「会報たま」は紙による会報は作りますが、希望者にはPDFファイルでメール添付してお送りします。メール会員になっていただくと、印刷と郵送の経費が削減されます。現在では、各支部報のほとんどがメール添付で多摩支部に送られてきます。埼玉支部では130名中103名がメール会員になっており、毎年メール会員が増えています。メールで送付されると、受信者も会報の整理が容易になり、メリットが大きいです。当支部でも一人でも多くの方にメール会員にお申し込みいただけますよう、お願い申し上げます。

お申込先はICT委員会 [ttm@jac.or.jp](mailto:ttm@jac.or.jp) です。

紙による会報送付、メール添付による送信、HPへの会報のアップはタイムラグがないように体制を整えます。

### 会報への投稿

報告は短く、要領よくまとめてください。参加者名は文字数の削減と個人情報保護を考慮し、苗字だけにしてください。同姓の会員がいる場合は、たとえば「小野(勝)」とします。山行報告は1000文字以内にしてくださると助かります。文字数が多い場合は当方で調整させていただきます場合があります。写真はできれば1MB以上、難しければ500KB以上のサイズでお送りください。原稿の書式などは本号の山行報告を参考にしてください。

会報は年4回、2月、5月、8月、11月発行の予定です。掲載希望の原稿はその前月の10日までにお送りください。もしそれまでに送付が難しい場合は、紙面構成の都合上、投稿予定を5日までにお知らせください。ご協力のほど、よろしく願いいたします。

原稿の送り先は次のようです。 [kaihoutama@yahoo.co.jp](mailto:kaihoutama@yahoo.co.jp)

**委員会報告**

(安全対策委員会)

**安全登山啓発と山の日 PR のチラシ配布**

日程：2019年8月10日（土）・11日（祝）

場所：奥多摩駅前

参加者：8月10日（5名）石井、小野（勝）、川崎、北島、河野

8月11日（6名）石井、北島、河野、中村（美）、本間、村岡

安全登山啓発と山の日 PR を行うために、「登山計画書を提出しましょう。8月11日は山の日です」のチラシを作成し、奥多摩駅前配布した。8月10日（土）は、奥多摩町の夏祭りで、登山者が早朝バス乗車に集まる時間帯（午前8時20分～9時20分頃）に配布した。予定の約100枚はすぐに完了した。8月11日（山の日）の早朝、奥多摩駅前には多数の登山客で混雑した。多摩地域の安全登山キャンペーン実施日で、駅前広場のブースに青梅警察署山岳救助隊、奥多摩消防署、東京都レンジャー、奥多摩ビジターセンターなどの関係者が勢揃いして、登山相談や登山届提出等のPR活動を行った。私達もチラシ配布をし、配布終了後は登山案内等の支援をした。

チラシは上質紙で作成し、裏面は「東京多摩地域の登山届提出先一覧」を印刷したことから、捨てられたチラシはほとんどなかった。作成には高尾警察署、五日市警察署に協力を得たが、配布にもご協力いただき、8月11日に高尾山ケーブルカー乗り場前と武蔵五日市駅前配布された。配布したチラシは合計約300枚だった。

(文・写真 / 石井秀典)

右 チラシ配布を終えて



(奥多摩 BC 運営委員会)

**奥多摩 BC で “生ビールを呑んで花火を観よう会”**

日時：2019年8月10日（土）

場所：奥多摩BC

参加者：石井、岡、北島、河野、小嶋、金、坂本、高橋、竹中、富澤、中村（敦）、広瀬、古市、本多、本間、山本

酷暑の続く8月10日の夕方、今年も奥多摩BC恒例のイベントが行われた。BC運営委員は10時から什器・備品の確認と「日本山岳会120年の歴史」パネルの総仕上げ。13時頃一降りあったが、蒸し暑さは変わらない。生ビールのサーバーも届き、料理の準備も始まる。通りは15時頃から祭りを楽しむ大勢の人達で賑やかさを増す。山車の巡行や子供神輿、大人神輿が練り歩く。この時間になると今日を楽しみにしていた支部会員も一人、また一人とルームに到着する。

パネルや「ピッケル展」に興味を持って来室した人たちも多かった。会員が日本山岳会や展示物の説明をした。夏祭りも佳境に入った16時、やっと生ビールが呑める会が始まる。毎年同じ顔もあれば、初めて参加の方も一人。2時間の談笑が続き、生ビールも羽黒三田神社と銘の書かれた一升瓶のお酒も無くなり、予定の18時に中締めとなった。愛宕山の上に咲く花火とお腹に響く音を全身に浴びて、屋台から流れてくる美味しそうな匂いに後ろ髪を引かれながら、私は帰途についた。BC泊まり人たちに地元の人も加わり、宴は22時頃まで続いたとのことだった。

パネルは来年7月末まで常設しています。皆さんの奥多摩BCのご利用をお待ちしています。

(文 / 中村敦子)

(総務委員会)

## 新入会員オリエンテーション — 積極的な参加を —

7月26日、立川市女性総合センター学習室にて新入会員オリエンテーションを開催した。2018年7月1日以降の入会者が対象で、23名に案内を出し、このうち11名が参加した。プログラムは、前半に各プレゼンを行い、後半には、個別の意見交換を中心に進めた。

前半は、高橋副支部長の挨拶に始まり、山本事務局長による日本山岳会の紹介、総務委員による支部の概要説明、石井安全対策委員長による計画書の提出の説明が行われた。

後半は、新入会員のひとこと自己紹介の後、

会議室にブースを設けた。新入会員は自由に移動し、興味のある委員会、同好会、サテライトの担当者と直接、意見交換を行った。スタッフは17名参加しており、支部活動の様々な質問に答えた。興味のある同好会の活動内容の質問のほか、計画書の提出方法や、BC利用の詳細な質問などもあった。

参加した新入会員へのアンケートからは「支部活動の内容が理解できた」という記載もあった。オリエンテーションが、新入会員の支部活動への活発な参加のための一助となれるよう次回の企画開催へつなげていきたい。

(文 / 土井友子)

## 納涼ビアパーティー — 吉祥寺戎 (恵比寿) ビアホールで開催 —

総務委員会主催、納涼ビアパーティーを、8月2日午後3時から、吉祥寺の戎(えびす)ビアホールにて開催した。参加人数14名(総務委員6名)だった。猛暑日が続く中、日がまだ高いうちに一息つくのもビアパーティーの醍醐味の一つであろう。

貸切のビックテーブルに飲み放題のドリンクが次々届き、参加者一同で何度も乾杯をした。今日はお疲れ様、乾杯！

暑い中、よくお越しくささいました、乾杯！。普段、お会いすることもなかなかない人とも、顔を合わせられたから、乾杯！。

吉祥寺駅のホームから目視できるくらい駅

近にある吉祥寺戎は、呑兵衛ならば一度は行きたいお店と言われているとのこと。たっぷり深く山に居る時間と、都会での生活を楽しむ時間を両立している支部の多くのメンバーのニーズに応えることができるよう、総務委員会の手探りで企画でもある。

催しとして、くじ引きを行った。景品には、マナスルのTシャツ、アウトドア用キャップ、山で食べてほしいお菓子セット等あり、辻橋会員の寄付により、実施することができた。参加者より、来年も開催してほしいという声があがった。

(文 / 土井友子)

### 梶海新道 SUMMIT TO SEA

2019年9月27-29日

参加者 : L内藤、SL濱野、植草、齋藤、清水(茂)、中原

27日 親不知=(タクシー)=北又小屋  
—イブリ山—朝日小屋

28日 朝日小屋—朝日岳—吹上のコル  
—黒岩山—犬ヶ岳—梶海山荘

29日 梶海山荘—菊石山—白鳥山—  
坂田峠—親不知

草紅葉の始まった山頂から夏の名残ある海岸まで。  
親不知の海にタッチした瞬間の達成感は格別。



長梶山の草紅葉



犬ヶ岳にて

ミニレポート

## 山行報告

〈6月定例山行〉

## 霧ヶ峰 — 山開きに遭遇 —

- ・日時：2019年6月1日（土）
- ・天候：快晴
- ・参加者：（15名）L比留間、SL小野（勝）、酒井、鬼村、三井、桜井、大根、大澤、嶋田、斉藤、馬場、広瀬、石原、仲谷、徳永
- ・行程：6:30分倍河原駅発＝（マイカー）＝10:00～05車山肩駐車場→10:50～11:30車山→11:50～12:40車山乗越→クルヌプヒュッテ→13:20コロボックルヒュッテ→14:00車山肩駐車場
- ・記録：

分倍河原駅で集合。マイカー4台に分乗し出発。ビーナスラインに乗り、白樺リゾートを越えて、標高1,800mの車山肩駐車場に到着。山頂の気象レーダ（1924m）が目前に見える。北アルプス、中央アルプスなどを望みながら1時間ほど歩くと山頂だ。ちょうど山開きの神事が行われていた。ホルンの音や、多くの人で賑わっている。登山シーズンに向けて登山の安全を祈願する。

その後は平坦な湿原歩き。ニッコウキスゲはないかと探すが見当たらない。まだ開花には早いようか。これは残念と思っていると、クルヌプヒュッテで4株のニッコウキスゲを発見。女将さんから、キスゲが大変貴重になってきたと説明を受ける。最後の難関100mほどの坂を登り、コロボックルヒュッテに到着。名物のビーフシチューを堪能する。これはまた冬にでも来たいと思う山行だった。

（文 / 比留間祐也、写真 / 酒井俊太）



車山神社の山開き神事



霧ヶ峰高原を行く

## ミニレポート

## 北海道の石狩岳と天塩岳

2019年9月6-8日

参加者：L野口、西村、河野（関西支部）、加藤（会員外）

6日 石狩岳シュナイダーコース往復

8日 天塩岳ヒュッテ→前天塩岳→天塩岳  
→天塩岳ヒュッテ

シュナイダーコースは急登の連続。  
山頂からトムラウシ、大雪一望。  
天塩岳はたおやかな草原状の山。



上 稜線にて  
石狩岳を望む



右上 天塩岳山頂にて

右下 天塩岳山頂直下



〈7月定例山行〉

## 花の栗駒山と焼石岳 一最後まで気配りを一

- ・日時：2019年7月27日（土）～28日（日）
- ・天候：1日目 曇り時折り小雨、2日目 曇り後晴れ
- ・参加者（27日：13名、28日：11名）L石橋、SL小野（勝）、SL鬼村、植草、川島、桜井（美）、嶋田（27日）、清水（義）、西村、人見、松川（信）、吉田（博）（27日）、山内
- ・行程：（1日目）一ノ関駅＝（バス）＝須川温泉→10:50 須川温泉発→ゼッタ沢コース・産沼コース→11:30～12:00 栗駒山→16:30 須川温泉＝一ノ関駅＝（電車）＝水沢駅（旅館泊）  
（2日目）水沢駅＝7:30 中沼登山口発→銀明水→姥石平→11:30～12:00 焼石岳→16:30 中沼登山口着＝（タクシー）＝17:30 水沢駅

## ・記録：

（6/27 栗駒山）一ノ関駅バス停で集合。9時発のバスで須川温泉（1120m）に到着。10時50分、硫黄臭が漂う登山口から岩塊の間を登って行くと、背後の空に鳥海山が聳えている。雄大な風景が広がる中、木道脇に咲き乱れるギボウシ等の花々を愛でつつ名残ヶ原を抜けて進む。三途の川を渡り、産沼の畔を通過して山頂直下の急登を登って行くと栗駒山の山頂（1627m）に着いた。一等三角点があるが曇り空だ。山頂に30分滞在して12時に下山を開始。往路をそのまま戻り、16時30分に下山。水沢駅の宿の松村旅館近くで夕食を摂った。

（6/28 焼石岳）都合によって2名が帰京した。7時半、11名で中沼登山口（720m）を出発。中沼（930m）で清々しい開放感を味わった後、リュウキンカ、ミズバショウ、マルバダケブキなどが咲き揃う登路を辿り、銀明水避難小屋に着いて、一部の荷をデポした。雪田の固い雪を踏み、チングルマの穂

が揺れる姥石平を通過すると焼石岳山頂（1547m）に着いた。一等三角点があるが曇り空で展望はない。ツリガネニンジン、ハクサンフウロ、ミネウスユキソウなどの花々が咲き乱れている。予定より早い11時30分到着だったので東焼石周回に誘われそうになったが、展望がきかないこともあり、往路を戻ることとし、12時に下山開始。雪田を通過し中沼まで滞りなく下る。中沼と登山口の間地点を過ぎたあたりで急な下降となる。15時前、登山口まで20分の地点で1名が濡れた木の階段で足を滑らせて右足下腿に裂傷を負った。看護師の方などが応急処置を施し止血したが、行動再開で再出血の危険があった。救急隊に通報しヘリ救助を要請した。8名は下山し、駅で解散した。負傷者は搬送先の病院で処置を受け、その晩に帰京した。最後まで気配りしつつ行動することが不可欠と反省した。

（文・写真 / 石橋學）



左 栗駒山にて  
下 焼石岳にて



## 〈8月定例山行〉

## 展望の北岳

- ・日時：2019年8月24日（土）～25日（日）
- ・天候：両日とも晴れ
- ・参加者：（8名）L内藤、SL小野（勝）、石川（さ）、大澤、鬼村、富永、人見、山内
- ・行程：
  - （1日目）6:30 広河原→7:10 広河原山荘→9:50～10:00 大樺沢二俣→  
13:00～30 八本歯の科尔→15:10 北岳山荘（泊）
  - （2日目）5:30 北岳山荘→6:50～7:30 北岳→8:10 北岳肩の小屋→  
9:00～10 小太郎尾根分岐→草すべり→10:45～11:10 白根御池→  
13:50～14:10 広河原山荘→14:20 広河原（解散）
- ・記録：

ぐずついた天気続きの八月後半だったが、山行の二日間は晴天に恵まれた。  
 (8/24) 早朝の広河原で夜行バス組と前泊組が合流。大樺沢の奥に北岳の姿を認めて歓声が上がった。心地よい水音を聞きながら二俣まで3時間。水量はやや多めだろうか。左俣の雪溪の左岸につけられた夏道に入ると、足元が崩れやすい急傾斜となり、喘ぎながら登る。沢筋を外れて八本歯の科尔への登りは丸太梯子の連続だ。途中、北岳バットレスの大岩壁が目飛び込んできた。目を凝らすと岩壁に取りついている人が見える。八本歯の科尔にて昼食。北岳山荘から間ノ岳への稜線が一望だ。北岳山荘へのトラバースにかかると、様々な高山植物が目を楽ませてもらった。北岳山荘では夕食までのひととき、外のベンチで雲海を眺めながらビールとワインを楽しんだ。  
 (8/25) 4時半に朝食。予定より30分早く出発。山頂に雲がかかっていたが、着くころ

には青空になった。7時前に山頂に到着。たくさんの登山者で賑わっている。たっぷり時間をとって眺望を堪能した。仙丈ヶ岳の向こうに中央アルプスが見える。甲斐駒ヶ岳と八ヶ岳の峰々。地蔵岳のオベリスクもくっきり見える。富士山も雲海の向こうに浮かんでいる。間ノ岳、農鳥岳へとつづく稜線、遙か塩見岳から荒川三山も見えている。いつまでも見飽きない。急坂を肩の小屋まで下ると、ヘリの荷揚げの最中。見物してから、さらに下る。小太郎尾根分岐を過ぎると長い草すべりの急坂が待っている。日差しと暑さに悩まされながら、白根御池小屋に到着。早めの昼食にする。広河原への最後の下りにかかったところの梯子段で一人転倒してヒヤリとしたが、幸い大事にはならなかった。昼食後の時間帯は油断禁物だ。予定通りの時間に広河原に下山。充実感を胸に、広河原を後にした。

（文・写真 / 内藤誠之郎）



八本歯の科尔への登りにて、地蔵岳をバックに



北岳山頂から間ノ岳への縦走路を望む



〈7月平日山行〉

## 霧降高原・丸山 ―霧の中にニッコウキスゲが咲き乱れ―

- ・日時：2019年7月18日(木)
- ・天候：曇り(霧)
- ・山名：日光 霧降高原・丸山(1689m)
- ・参加者：(5名) L 副島、鬼村、小野(勝)、酒井、中原
- ・行程：8:00 東武浅草駅 9:50=(特急きぬ号)(下今市乗り換え)=10:00 東武日光駅=(バス)=  
10:25～10:46 霧降高原 BS・レストハウス→11:04～10 天空回路・分岐→11:40～50 八平ヶ原  
→12:08～28 急階段・手前→12:28～13:10 丸山(1689m)→13:28 小丸山→13:35～42 展望台  
→天空階段→避難小屋→13:57 天空回路→14:25 霧降高原 BS・レストハウス→14:25=(バス)  
=14:50 東武日光駅

## ・記録：

霧降高原 BS で下車。帰路の天空階段を見上げるが途中からは霧の中。レストハウスで尋ねると「登山道は整備されて、問題ありません！」とのこと。整備された山道を進む。泥道は予想より乾いていた。一汗かく前に天空回路への分岐点へ到着。ここから急な下り坂、そして沢筋を滑りそうな岩に注意して登る。今度は黒い泥道で急坂が饅頭のように丸まってよく滑るが、道の脇の笹をつかみ登る。上下を繰り返すと、広く平らな八平ヶ原について休憩。ここから木造の階段が続いた。ゆっくりと高齢者の息が上がらないテンポで太腿を上げて登った。広場に岩があちこちに在って座るのには、丁度良かったところが頂上だった。地名の通りの霧に囲まれて、展望は全くない。昼食の途中で、頭の上の箇所だけ青空が覗いた。帰路の階段は岩で、段差がばらばらで大きかった。小丸山の近くまで降りると下が見えてきた。鹿の侵入予防の柵の中に入ると道の両側に、時期が遅かったが群落風にあち

ここに「ニッコウキスゲ」が咲いていて、観賞できた。リフトの跡地に天空階段が出来て、途中からはお花畑を左右に散策できる回路とベンチが整備されていて、ゆっくり観賞できた。が、1本前のバスに乗れそうな時間が迫っていたので、回路から階段に戻り、急いで降りた。予定よりも1時間15分早いバスに乗れた。東武日光駅で解散した。

(文/副島一義、写真/酒井俊二)



丸山山頂にて

## ミニレポート

## 甲斐駒ヶ岳(黒戸尾根)

2019年8月24-25日

参加者：L 中原、植草、齋藤、西山

24日 6:10 竹宇駒ヶ岳駐車場→

13:00 七丈小屋

25日 3:45 七丈小屋→八合目御来迎場

→6:50 甲斐駒ヶ岳→仙水峠→

12:10 北沢峠

甲斐駒ヶ岳をバックに  
駒津峰にて

梯子の連続

軽量化をはかり、梯子の連続を越えて山頂へ。  
北沢峠からの登山と違う趣に胸が弾んだ。

〈自然保護委員会〉

## 御岳山レンゲショウマ観察会とロックガーデン散策

- ・日時：2019年8月21日(水)
- ・天候：曇り時々雨
- ・場所：奥多摩御岳山・ロックガーデン
- ・参加者：24名(委員9名) 山行L高砂、  
[1班]講師小河、SL浅香、一般4名、[2班]講師石井、SL茂出木、SP高間、一般7名、  
[3班]講師笠松、SL石塚、SP河野、一般4名
- ・行程：10:20 ケーブル頂上駅御岳平→10:25～11:05 富士峰園地・レンゲショウマ観察→御岳ビジターセンター前→12:00～40 長尾平(昼食)→ロックガーデン分岐→12:55 天狗岩→綾広の滝→14:00 東屋→天狗の腰掛け杉→14:40 御師集落→15:00 ケーブル頂上駅

## ・記録：

一般参加者は当初28名の申し込みがあったが、直前でのキャンセルが多く15名となった。3班に分かれて観察・散策を実施した。

午後から雷雨予報が出ていたため、空模様を気かけながらやや急ぎ気味の観察会となった。富士峰園地のレンゲショウマの群落は満開時の3割程度の開花で、やや寂しい感があった。それでも参加者の方から「十分、満足です」との声を聞くことができた。他にヤマジノホトギス、マツカゼソウ、トチバナニンジン(実)、ツクバネソウ(実)、タカオヒゴタイ、モミジガサ、オクモミジハグマなどを観察できた。ビジターセンターへ向かう道では、ヤマユリ、フシグロセンノウ、ヒメキンミズヒキなども見られた。

ビジターセンターから御岳神社に向けての道端では、イワタバコ、クサノオウ、ヤマトリカブト、ツルニンジン、キツリフネソウなど、長尾平からロックガーデンへの周辺では、ハエドクソウ、イワタバコ(葉)、テバコモミ

ジガサ、タマガワホトギス、ギンバイソウなどを観察出来た。

綾広の滝から神社への帰路には、

バйкаツツジ、ミヤマタニワタシ、ボタンヅル、ツルリンドウ、カノツメソウ、リョウブ、ジャコウソウなどが観られ、御岳神社から御師住宅、ケーブル頂上駅の間には、センニンソウ、カラスビシャクなどの植物を観察することができた。1週間前の下見時に比べ、開花している花が少ない印象だったが、講師は目ざとく探し出し、植物の名の由来や特徴などを説明した。

ロックガーデンでは、連日の雷雨のため川の水量が増えていたので慎重に徒渉した。綾広の滝の迫力ある姿にも感嘆の声が出た。途中、小雨に降られたが、雷雨に遭うことはなかった。

(文/浅香利恵、写真/高砂寿一、河野悠二)



レンゲショウマ



レンゲショウマ観察会で参加者は秋の初めの花々を楽しんだ

## 〈自然保護委員会〉

## 山の不思議発見 一富士山御庭の自然観察会一

- ・日時：2019年8月28日(水)
- ・天候：雨
- ・参加者：18名(講師1名、会員15名うち委員6名、会員外2名) 講師/小泉武栄  
山行L河野、岡、松川(信)、茂出木、北原、小河、植草、川尻、川村(利)、  
木谷、佐久間、佐古、富澤、中村(敦)、丸山、会員外2名
- ・行程：7:40 谷保駅=(バス)=9:40 御庭登山口→9:50~12:30 御庭観察=(バス)=15:40 谷保駅着
- ・記録：

昨年、『謎解き登山のススメ〜地形・地質から植生を考える〜』のタイトルで講演していただいた小泉武栄先生を講師にした観察会。バスの中で、岩殿山は丹沢山系とほぼ同じところに隆起した礫岩の山、富士山には側火山(寄生火山とも呼ぶ)が100以上あり、その代表的な山は大室山という説明があった。中央高速を下りると、昔は萱場だった所がほぼアカマツ林になり、スバルラインの料金所を過ぎるとアカマツの他にシラカバやクマシデなどの雑木林になる。出発時は雨が降っていなかったが、途中から雨になった。

御庭の登山口から赤茶色のスコリア(玄武岩質のマグマが空中に噴出し、マグマの中の気体が逃げ去り、多孔質で軽い火山砂礫となったもの)がある石段を登る。足元にはイタドリが咲いている。カラマツの根元にはコケモモが生えている。カラマツは太い幹が2m位で折れ曲がっているが、若く細い木は真っすぐに伸びている。これは古いカラマツが風よけになり、若い木は曲がることなく成長できた証とのこと。富士山の山頂は噴火により塞がれているので、側溝のような割れ目噴火の跡があり、左右が違う樹林帯になっている。一方は雑木林のようで、他方は風

下に枝を伸ばした旗型樹形のカラマツが数本だけ生えている。この違いは噴火で溶岩が流れたか、噴火により隆起したかの違いである。昨年の雪崩によって倒された樹々がある崩落地があり、同じ高さでえぐられた木立の様子は、雪崩が原因と知った。噴火跡周辺でハイマツのように曲がった太いカラマツが生えている。雨と強風の中を大沢崩れの方に向かったが立入禁止の看板があり、その先は行かなかった。

噴火から600年が過ぎた所はスコリアが目立つが、白いミヤマハナゴケは動きが止まった岩に生えているとのこと。噴火から1200年過ぎた所は、朽ちた草木で土はふかふか、瑞々しい苔が生え、老年期を迎えたカラマツ、シラビソ、オオシラビソ、コメツガ、ダケカンバ、ハクサンシャクナゲなどの高さのある樹々の林になっている。森林限界の最先端にカラマツが生えるのは富士山だけで、土壌の構成とカラマツの種子が乾燥に強いこと、カラマツの枝は強風でも折れにくく曲がるなどの理由だった。富士山の不思議を実際に見られたこと、観察は不思議だと気づくことが大事だと実感した。

(文/小河今朝美、写真/河野悠二)



富士山の割れ目



富士山御庭入口にて

## 〈名山を楽しむ会〉

## 鳥海山・月山 —残雪と花の名山を歩く—

- ・日時：2019年6月22日（金）～24日（日）
- ・天候：1日目 曇り後雨、2日目 曇りときどき晴れ、3日目 曇り
- ・参加者：（6名）L 佐藤、SL 濱野（鳥海山のみ）、SL 齋藤、SL 富永、鬼村、赤坂（憲）
- ・行程：
  - （1日目）6:40 鉾立登山口→8:26～40 御浜小屋→8:55 扇子森→10:08～30 御浜小屋→12:27 鉾立登山口→鳥海温泉（泊）
  - （2日目）鳥海温泉＝（宿の車）＝吹浦駅＝（電車）＝8:30 鶴岡駅＝（タクシー）＝9:25～30 湯殿山籠所＝（バス）＝9:35～47 湯殿山神社登山口→11:06 装束場→13:16 紫灯森→14:45 月山頂上小屋→月山神社
  - （3日目）6:40 月山頂上小屋→7:37 牛首→8:07 金姥→8:37 姥ヶ岳→9:15～30 リフト上駅＝（リフト）＝下駅
- ・記録：

（6/22 鳥海山）東京駅八重洲南口から夜行バスで出発。象潟に5時到着。タクシーで鉾立登山口まで行く。標高1160mは少し寒い。高山植物が丁度咲き始め、たくさんの花が咲き誇っている。賽ノ河原の手前から大雪渓が現れるところで登山者と前後する。前日からの雨で雪上のトレースは消え、ルートファインディングをしながら進む。ガスが濃くなり、視界は10～20mになってきた。御浜小屋の外で軽食をとる。風はますます強くなり時々耐風姿勢をとる。御田ヶ原分岐を過ぎてから撤退を決定。下りは御浜小屋で長い昼食をとる。下りの雪渓でアイゼンをつける。捜索隊3名が登ってきた。遭難者が出たとのこと。タクシーで宿の鳥海温泉遊楽里に行き、温泉で汗を流していると、凄い豪雨が15分位続いた。夕食時には陽がさして7階の席から日本海に沈む夕日を見ることができた。

（6/23 月山）吹浦駅まで宿の車で送ってもらい、JRで鶴岡駅へ。鶴岡からタクシー

で湯殿山参籠所まで約45分、湯殿山神社参拝のバスで登山口へ。奥の院で参拝を済ませ月光坂を登る。水が豊富なので水芭蕉やリュウキンカが沢山道の脇に咲いている。月光坂は急で梯子の連続。坂を上りきると装束場に至る。装束場を過ぎるとやや平坦になり残雪の上に道を探しながら進む。最初の雪渓を超えた所で雪の壁が行く手を阻んでいるため、アイゼンを装着しピッケルで足場を刻む。山頂直下150m位まで雪渓の中を登る。時折ガスがでて視界を遮る。お花畑が現れウスユキ草やイワカガミ、ミヤマキンバイの群落が一面にある。頂上小屋に着いて散策。夕食は根曲竹の天ぷらや焼き筍をはじめ、コシアブラ、アザミの天ぷらなど御馳走だった。

（6/24 月山）雨の予報だったが曇りに変わった。6時40分出発。ガスで、ルートを間違えない様に雪渓の縁に沿って下山する。姥ヶ岳経由でリフト乗り場に到着。村営バス、高速バスを乗り継ぎ山形駅新幹線で帰京。

（文 / 鬼村邦治、写真 / 佐藤守）



賽ノ河原の雪渓



月山神社

## 〈名山を楽しむ会〉

## 穂高縦走 ー 天空の稜線を歩くー

- ・日時：2019年8月10日（金）～12日（日）
- ・天候：晴れ
- ・参加者：（9名）L 佐藤、SL 齋藤、SL 西山、赤坂（優）、赤坂（憲）、清水（茂）、清水（義）、富永、中原
- ・行程：
  - （8/10）9:05 上高地→11:45～12:05 横尾→15:15 涸沢ヒュッテ（泊）
  - （8/11）5:38 涸沢ヒュッテ→9:10～45 北穂高岳北峰→10:05 北穂高岳南峰→13:00～40 涸沢岳→13:45 穂高岳山荘（泊）
  - （8/12）4:20 穂高岳山荘→5:05～30 奥穂高岳→6:17～45 穂高岳山荘→9:00～20 涸沢ヒュッテ→11:45～12:00 横尾→14:40 上高地
- ・記録：

（8/10 涸沢）上高地バスターミナルに降り立つ。先発の4名は先に山研を出発し、後発5名は2時間遅れで後を追った。横尾から梓川を渡る。樹林帯は風が無く、もの凄く暑い。予定時間に涸沢ヒュッテに到着した。涸沢ヒュッテは予想通りの賑わいで、テント場は色とりどりのテントが隙間無く張られていた。先発隊がテラスの最高のポジションを確保してくれていた。全員集合で乾杯。

（8/11 北穂高岳）朝食後、北穂高岳に向かって出発。ぐんぐん高度を上げると、色とりどりのたくさんの高山植物に出会う。視線を反対側に向けると、表銀座へ続く常念岳、荘厳な八ヶ岳、優しげな南アルプス、中央アルプス、富士山、更に視線を右に向けると奥穂高岳が見えた。北穂高岳山頂からの景色も凄い！水晶岳から黒部五郎岳などの山々を一望だ。涸沢岳に至る稜線は険しい岩場の上り下りの繰り返し、鎖を使ってのトラバースなど持てる技術をフル活用して歩き続けた。切り立った岩場に鎖とボルトの足場

だけで、空中散歩をしているよう。涸沢岳では喉がカラカラになっていた。涸沢岳の頂上に立つと景色を楽しむ余裕が生まれ、見渡せば360度の展望があった。

（8/12 奥穂高岳）午前3時30分に起床。奥穂高岳へ登頂開始。ヘッドランプの灯りを頼りに慎重に進み始めた。周囲は夜明け前で薄暗く、登山者達のヘッドランプがチラチラと見えた。鎖場や梯子を登り、普通の登山道に出たころに明るくなり、東の空の雲海から光の筋が見え始める。目指す先には朝日に赤く染まった奥穂高岳の頂上が見えた。山頂は360度の展望。奥穂高岳から西に伸びる稜線は西穂高岳へと続き、南に伸びる稜線は前穂高岳へと続いている。穂高岳山荘に戻り、ザイテングラードから下山。約2時間で涸沢ヒュッテに到着。大自然の中に身を置き、天候に恵まれ、天空の稜線歩きをさせてくれ、すばらしい景色を堪能させてくれた穂高岳に「また来るよ」とつぶやいた。

（文 / 赤坂優貴、写真 / 佐藤守）



北穂高岳山頂



奥穂高岳山頂にて朝日を浴びる

## ＜沢登り同好会＞

## 檜原・温場ノ沢

- ・日程：2019年8月24日（土）
- ・天候：晴れ時々曇り、現地気温 25℃
- ・参加者：L長門、SL濱野、川崎
- ・行程：8:00 武蔵五日市駅発＝(マイカー)＝9:30 小坂志川沿い林道駐車場発（標高 400m）  
→10:35（460m付近）休憩→11:45（630m付近）休憩→13:15 万六尾根（870m付近）  
→15:45 小坂志川林道着

## ・記録：

武蔵五日市駅から上野原あきるの線經由小坂志林道に入る。小坂志川と湯場乃沢分岐付近に掛かる橋が入渓点。林道から沢へ2m程下った。木々に覆われ少し薄暗い沢筋を登り始めると、程なく小滝の連瀑帯が始まる。高巻きが難しい場所や、釜の深みを避けなければならない小滝ではシャワーを浴びて登った。後半の小滝はロープを使った。狭いV字谷（ゴルジュ）では両手で岩壁をつっぱりながら登った。開けた場所で休憩し、しばらく進むと徐々に沢水は伏流水とな

り、ガレ場の登りとなる。尾根筋に上がる谷は急で、沢靴で苦戦しながら最後のツメを登る。稜線に出ると標万六尾根に出た。尾根を5分程度登ると「作業道（通行止め）」の標識があり、これに従って下山開始。しばらくは道は良く踏まれていて、林道の脇で歩きやすい。それを過ぎるとルートファインディングが必要になり、急な下りでは、笹竹を掴んだりした。2ヶ所で懸垂下降もした。稜線を出て2時間半後、林道に到着した。

（文 / 濱野弘基）

## 北秋川水系・月夜見沢遡行 一滝にチャレンジ

- ・日時：2019年9月7日（土）
- ・天候：晴れ。都下は最高気温 34.5℃。
- ・参加者：L長門、川崎、西山
- ・行程：8:00 武蔵五日市駅＝(車)＝9:00 藤倉（駐車場）→9:20～30 入渓点→10:40～55 休憩（560m）10→11:40～55 休憩（595m）→12:30～40 休憩（635m）→13:50 二股（遡行終了）→沢下り→15:15 林道（630m）→16:10 藤倉（駐車場）

## ・記録：

武蔵五日市駅に集合し、川崎車にてバス停終点「藤倉」に向かう。藤倉から入渓点の落合橋へ700mほど歩く。小さな橋のたもとに石の階段が沢へ下りている。ナメ沢という態ではなく、水は多いし流れも深さもある。水底を探り流れに足を取られないようにゆっくりと遡行していく。1～3mほどの小滝の連続。足場手掛があり登れてしまうものもあるが、取り付き難そうな滝もある。巻き道の踏み跡があるが、川崎さんが滝に果敢にアタックしていくのでつられてしまう。小滝の滝つぼは釜になっている。見るからに深そうな釜がいくつか。小さな釜なのだが釜の真ん中を歩いていくのが怖い。ザックの浮力を頼りに岩肌にしがみついてへつり気味に、釜の淵をたどり小滝の下まで入る。滝の水流にあおられ押し戻されんばかりだ。岩の小出っ張りに指を這わせ踏ん張る。やがてリーダーが滝上からロープを垂らしてくれる。チムニー

状の沢を全身を使って水に打たれながら上りきる。その後2度ほどロープを出してもらおう。確保する練習もした。終了点の二俣へ着いたのは14時前。林道出合いまで沢を下る。滝を下るのは難しい。懸垂下降を2ヶ所でする。沢筋は陽の陰りも早い。下っていくと林道出合いに出た。私たちは滝登りを重ね、ロープの力も借りながら楽しめた。沢も歩き方で趣が変わるのだと思った。

（文 / 西山さより、  
写真 / 川崎真琴）



月夜見沢遡行

## 〈中級登山教室〉

## 雪上訓練 in 富士山

- ・日時：2019年6月1日(土)～2日(日)
- ・天候：1日目曇り、2日目晴れのち曇り
- ・参加者：9名

[講師]宮崎(紘)、北島、[A班]中原、西山、富永、清水(茂)、[B班]内藤、青木、村岡

## ・行程：

(1日目)9:30 富士山駅集合、9:40 富士山駅=(バス)=10:40～11:00 富士スバルライン五合目  
→11:20～12:05 佐藤小屋(昼食)→14:00～55 七合目(講義、雪上歩行訓練)  
→15:55 佐藤小屋

(2日目)5:35 佐藤小屋→7:30 七合目付近→7:40～10:50(歩行/滑落停止訓練)  
→11:00～45(雪渓上の下山訓練)→(昼食)→12:25 八合目付近→13:00～30 佐藤小屋  
→14:00～50 富士スバルライン五合目=(バス)=15:40 河口湖駅

## ・記録：

(6/1) 富士山駅で集合し、スバルライン五合目行きのバスに乗車。時折雲の隙間から日が射し、ほんの一瞬富士山が顔を出す。国立公園内テント禁止との事で、テント泊予定から自炊小屋泊に変更。佐藤小屋へ向かう道には桜が咲いていた。

佐藤小屋(標高2230m・気温6℃)到着後、昼食をとり、12:05 出発。雪崩、落石止め的大型側壁沿いの幅広い道を登って行く。七合目付近で岩道にかわる。周りは真っ白で山頂

はまったく見えない。七合目トモエ館(2740m)で、宮崎講師からピッケルの使い方の講義。高山のせいかわたらくびがでる。その後雪上へ移動して歩行。1日目はアイゼンなしで、ピッケルを使い、キックしながら歩く。ブル道を砂埃あげながら下山。六合目で泉ヶ滝へ分ける道を佐藤小屋の方へ。登りの時に「この場所を自分で何か目印を決め、よく覚えておきなさい」と言われていた。下山時に確認でき、迷わず進めた。夕食を皆で作り、20:00 就寝。  
(6/2) 4:00 起床。5:35 出発(気温4℃)。富士山山頂はいつも見ている形と全然違って見えた。八ヶ岳・南アルプス・御坂山塊・奥秩父方面もよく見えている。2720m 地点でアイゼン装着。きちんと履けていると思っていたが、未熟な事がわかった。北島講師よりアイゼン歩行とピッケルを使つての滑落停止の講義を受け実習。一步一步意識してのアイゼン歩行・横断、滑落停止も何回もやるうちに覚えた。その後3020mまで登り、アイゼン下りの練習。参加者に大きな体験と自信となり、有意義な山行だった。  
(文・写真/中原三佐代)



富士山雪上訓練

## ミニレポート

## 劔岳早月尾根

2019年9月19日—20日

参加者：清水(義)

馬場島から早月尾根をピストンした



早月小屋より夕日に染まった劔岳



劔岳山頂から立山。南東には富士山も望め、360度の大展望

## 〈中級登山教室〉

## 劔岳 一天候回復を祈りながら

- ・日時：2019年7月27日(土)～29日(月)
- ・天候：1日目 晴れのち曇り時々雨、2日目 曇り時々雨、3日目 曇り時々雨
- ・参加者：10名(講師3名、受講生7名) [講師]山行L宮崎(紘)、佐藤、北島、  
[受講生]清水(茂)、青木、中原、村岡、富永、齋藤、西山
- ・行程：
  - (1日目)7:10～8:00 室堂BT→8:55～9:05 雷鳥平→9:55～10:05 新室堂乗越→  
11:40～12:00 劔御前小屋→12:45 劔沢(泊)
  - (2日目)6:30 劔沢→7:05～25 劔山荘→9:30～50 前劔→平蔵ノコル→11:15 カニのタテバイ→  
12:15～50 劔岳→13:10 カニのヨコバイ→15:00 前劔→16:40～50 劔山荘→17:20 劔沢(泊)
  - (3日目)7:10 劔沢→8:15～25 劔御前小屋→9:50 雷鳥平→11:00 みくりが池温泉→  
12:15～45 室堂=黒部アルペンルート=14:25 扇沢(解散)

## ・記録：

(7/27) 前夜23時に新宿を出発した夜行バスは晴れ上がる室堂2420mに着いた。玉殿湧水の前で朝食後、出発。雷鳥沢テント場から浄土沢を渡り、別山乗越(劔御前小屋)で昼食。220mほど下り劔沢キャンプ場へ。劔岳を目にしたのはこの時だけだった。天気予報では明日は午後から晴れ間ありとのこと。3:30 発の予定を6:00 時出発に変更。18:30 就寝。

(7/28) ガスが切れかけてはまたすぐ視界が白くなる。雨も降ったかと思えば止む。6:15 頃出発の号令がかかり、6:30 出発。劔山荘でトイレ休憩。雨具を身につける。「風が強いので」と引き返してきた数パーティーとすれ違う。7:35、1の鎖の岩場。一服劔に気づかず過ぎて、前劔の門5番鎖の金属製の橋は片側スッパリ切れ、鎖をしっかり握りしめた。前劔付近でハーネスをつけた。

10:40、7番鎖平蔵の頭の鎖にとりつく。鉄のボルトをステップやホールドに使い急傾

斜を上がる。9番鎖のカニノタテバイへ着く。高さは20mほどか。佐藤講師が先陣を切る。宮崎講師が垂直の岩場が始まる地点に待機。カニノタテバイの最後の鎖区間は鎖なくしては体が上がらない。カニノタテバイを過ぎてよじ登る岩場が続いていた。早月尾根への分岐を見て、頂上の祠を霧の中に見つけた。劔岳(2999m)登頂。肩を抱き合い、手をたたき合う。ガスで眺望はない。

12:50 下山開始。カニノヨコバイは岩肌に張り付きすぎないように鎖だよりトラバース。すぐに高低差があり切れた岩間の移動がある。10mほどの垂直の梯子下り。

17:20 劔沢テント場に帰着。計画より2時間以上多くかかった。

(7/29)5時起床。曇り空で時折雨も降る。7:10 出発し、8:15 劔御前小屋着。雷鳥平から階段状の上りが厳しい。みくりが池温泉に着くころに晴れてきた。入浴後、室堂へ。無事3日間の山行を終えた。

(文/西山さより、写真/中原三佐代)



前劔へ岩場を登る



劔岳山頂にて



## 〈第7期初級登山教室〉

## 大菩薩嶺 一天候を見ながら

- ・日時：2019年7月20日(土)
- ・天候：曇り時々小雨
- ・参加者：30名(受講生18名、スタッフ12名) 山行L河野
  - 〔1班〕長田、上市、茅野、原田、班L小河、班SL小野(勝)、講師宮崎(紘)、SP石川、
  - 〔2班〕上田、川合、小林、菅野(浅)、菅野(尤)、山本(曜)、班L山本(憲)、
  - 班SL小山、講師野口、SP小澤、〔3班〕小泉、高岡、中尾、中村(美)、西岡、
  - 日向、藤本、皆川、班L土井(充)、班SL中村(敦)、SP竹中
- ・行程：8:10 甲斐大和駅=(バス)=8:55~9:25 上日川峠バス停→10:00~10 福ちゃん荘→11:15~20 雷岩→11:30~35 大菩薩嶺→11:45~12:15 雷岩(昼食)→13:00~25 大菩薩嶺→14:00~10 武蔵山荘→14:25 福ちゃん荘→14:40~15:00 上日川峠バス停=(バス)=15:40 甲斐大和駅
- ・記録：

梅雨が長引き実施決行に悩むが、2ヶ月連続での延期・中止を避け、実施することにした。甲斐大和駅からの増便バスに全員座れた。上日川峠は標高1500mを越えているので涼しい。小雨がちらつく中、樹林の中でミーティングなどをして出発。樹林の中の登山道に行く。雨具を身に付けての登りは蒸し暑く感じる。福ちゃん荘で衣服調整をする。樹林帯を抜けると風が心地よいが、雷岩の稜線に上がると強い風が待っていた。大菩薩嶺頂上は樹林に覆われ展望はない。記念写真を撮り、雷岩に戻る。雷岩手前の倒木帯で昼食にする。休んでいると体が冷えてくる。タイトの受講生には雨具のズボンを着用してもらおう。雨は時々小雨がぱらつく程度である。雨雲の上なので展望はそこそこある。富士山、南アなどに加え奥多摩方面の展望まで臨めた。稜線は岩場の下りを慎重に通過した。

大菩薩峠で15分程度遅れていた。小屋平バス停への滑りやすい登山道を下るリスクを考慮し、大菩薩峠から直接上日川峠に



雨があがった大菩薩峠にて下ることにした。大菩薩峠からの林道を下り始めると林道脇に4~5頭のニホンジカが草などを食べていた。食害が広範囲に及んでいることがわかる。勝縁荘脇から宮崎講師、野口支部長の母校の山荘「武蔵山荘」に立ち寄る。小屋の裏側に回ると樹林の間に富士山が望める格好の場所にある。上日川峠で増便予約変更のバスにスムーズに乗車した。(文・写真/河野悠二)



雷岩から大菩薩峠へ

## 〈第7期初級登山教室〉

## 暑さと闘った川苔山

- ・日時：2019年8月17日(土)
- ・天候：晴れ時々曇り
- ・参加者：24名(受講生14名、スタッフ10名) 山行L河野
  - [1班] 長田、上市、茅野、菅野、高橋、村上、班L小河、班SL小野(勝)、
  - [2班] 上田、小林、菅野、山本、班L山本、班SL村岡、SP植草、講師宮崎(紘)
  - [3班] 近藤(節)、中村(美)、藤本、皆川、班L土井(充)、班SL中村(敦)、講師野口
- ・行程：8:18 奥多摩駅発=(バス)=8:30～9:00 川乗橋バス停→10:00～10 細倉橋→  
10:55～11:10 百尋ノ滝取付→12:15～50 火打石谷(昼食)→14:10～25 川苔山→  
15:20～30 大ダワ分岐→16:55～17:05 大根ノ山ノ神→17:30～45 観光トイレ→18:00 鳩ノ巣駅
- ・記録：

6月の予定が雨天順延で一番暑い時期での山行になってしまった。受講生の参加人数が半数の14名となった。天気予報では35℃を超える猛暑日となるため、受講生に熱中症対策(十分な飲料水、冷感グッズなどの持参)を指示した。

川乗橋バス停横の川乗谷林道でミーティングなどをする。比較的に日陰の多い谷沿いの林道だが、歩き出すと蒸し暑く汗が噴き出す。細倉橋から川乗谷沿いの登山道に入ると多少涼しく感じられる。百尋ノ滝手前の河原で水分補給をする。気合を入れて急な登りにかかる。百尋ノ滝には寄らず急な登りを続ける。登りを終え、しばらく等高線沿いの登山道にホッとする。火打石谷に下り木陰で昼食とする。受講生は強くなったと感じた。受講生が足つり予防に野口講師からゴムバンドを巻いてもらう。再び横ヶ谷の沢沿いの道を詰め、左手の尾根に乗越したところで一休み。尾根を吹き渡る風が気持ち良い。ダラダラの登りを詰めれば川苔山の肩にでる。肩から最後の登りをこなして頂上に飛び出す。富士山、雲取山は雲の中だ。



川乗谷の木橋を渡る

下りは長い。もう一度気を引き締めて、順調に大ダワ分岐まで下り一休み。更に大きな枝沢の所で休む。ここから一層長く感じる水平道だ。大根ノ山ノ神に着いてホッとしますが、最後の下りに更に注意を促して下る。生活道に出た観光トイレ前で解散する。この暑い中皆よく頑張った。この経験は、今後の山行に必ず役に立つし、自信にもなったと思う。(文・写真/河野悠二)



14時過ぎにやっと着いた川苔山山頂にて



ヤマジノホトトギス

## 〈第8期初心者登山教室〉

## 雨の大岳山

- ・日時：2019年7月6日(土)
- ・天気：曇り一時雨
- ・参加者：39名(受講生25名、講師・スタッフ14名) 講師・総括L宮崎(紘)  
山行L武藤、〔1班〕大澤(啓)、嶋崎、茅野、原島、三原、吉田、渡部、  
班L内藤、班SL中村(照)、SP石川、SP清水(茂)、講師山本(憲)、  
〔2班〕天野、小俣、片野、久保嶋、小久保、後藤、白川、高田、山本(由)、  
班L富永、班SL植草、SP小池、〔3班〕岩井、郡司、塩谷、善田、田村(郷)、  
田村(満)、野村、平野、古谷、班L土井(充)、班SL広瀬、SP浅香、SP大澤(則)
- ・行程：7:00立川駅北口発=(貸切バス)=9:40ケーブルカー=御岳山駅→11:30芥場峠→  
12:20～50大岳山荘→13:30～50大岳山→14:10大岳山荘→15:00芥場峠→  
ケーブルカー=16:30御岳山駅=(貸切バス)=18:45立川着
- ・記録：

梅雨の最中、ケーブルカー御岳山駅に着くころに雨は止み、ホッと一息。今回は、山道の歩き方に加えて地図読みと記録が課題。要所で現在地を確認し、記録を取るように促す。長尾平分岐、天狗の腰掛け杉と順調に進み、近年新設された奥ノ院口のトイレ前で休憩。このルートにはトイレが満遍なくあってありがたい。芥場峠手前からいよいよ本格的な山道になる。改めて歩き方を指導。登山道わきの斜面にはヤマアジサイの白い花が咲き乱れている。芥場峠を越えて大岳山荘へのトラバース道にかかるると左側が切れ落ちた岩場になる。岩場での足の運び方や鎖の使い方などを指導する。無事大岳山荘に到着して昼食休憩。昼食後、山

頂への最後の岩場通過に備えて三点支持の説明をする。いよいよ核心部の岩場だ。手を使って登る場所が2ヶ所ある。雨上がりで滑りやすく、足場と手掛かりを指示し、慎重に登ってもらう。バランスを崩して崖側に横転した受講生がいてヒヤリとしたが、全員無事、大岳山山頂に登頂した。集合写真の顔は、みな満足げだ。どんよりとした梅雨空の下、山行になったが、峰に懸る雲、霧の中の植林地、鮮やかな緑の苔など、この天候ならではの山の魅力も話題になった。

下山中に雨が降り始めたが、本降りにはならず、ほぼ予定通りの時刻にケーブルカー駅に帰着。受講生にとって一段階ステップアップした山行になったと思う。

(文/内藤誠之郎、写真/山本憲一)



岩場を乗り越えて大岳山山頂にてニコリ

〈8期初心者登山教室〉

## 御前山 一次ににつながる山行に一

- ・日時：2019年8月3日(土)
- ・天候：晴れ
- ・参加者：36名(受講生25名、スタッフ11名) 講師・総括L宮崎(紘)  
 [1班]相川(明)、相川(佳)、大澤(啓)、嶋崎、茅野、三原、宮崎(順)、  
 吉田、渡部、山行&班L内藤、班SL小野(勝)、SP人見、[2班]天野、小俣、  
 久保嶋、小久保、後藤、白川、高田、山本(由)、班L富永、班SL中村(正)、  
 SP山内、[3班]群司、小峯、塩谷、善田、田村(郷)、田村(満)、野村、平野、  
 班L山本(憲)、班SL竹中、講師野口、SP大澤(則)
- ・行程：7:10立川発=(バス)=8:45都民の森駐車場→9:10～30月夜見第二駐車場→  
 10:30小河内峠→11:55～12:25惣岳山→12:50～13:10御前山→14:35小河内峠→  
 15:30月夜見第二駐車場→16:05都民の森駐車場=(バス)=18:45立川着
- ・記録：

連日の猛暑続きで御前山の山行も暑くなるだろうと、覚悟を決め集合場所に向かった。

第8期初心者向け登山実習も最後の山行だ。集合した受講生同士に笑顔と会話があり、仲間意識が感じられた。バスの中では野口講師より熱中症の話聞き、気を引き締めた。月夜見第二駐車場でミーティングなどを行い、地図で現在地の確認・虫除け対策等の話をして出発。長い下りを歩き始める。ゆっくり小股で歩

くようにアドバイスを。帰りは最後にこの坂を登るので、余力を残すように話をしながら進んだ。

木陰と日が少し陰っていたので想像していた暑さではなかったが、こまめな水分補給と休憩を取った。随分歩き方が安定してきたと感じる。小河内峠からのヤセ尾根も足がすくむこともなく通過していた。前回2回は雨に降られ、レインウェアを着用したが、今回は虫に悩まされ虫除けスプレーやネットを付けている受講生もいた。

惣岳山で昼食をとり、初めてのお花摘みの体験もできた。

御前山山頂は木が伐採され、少しだけ見晴らしが良くなっていた。集合写真を撮り下山を開始する。「疲れたー」の声もあったが、次の初級教室につながる山行になったと感じた。

(文/富永真由美、  
写真/山本憲一)



御前山山頂にて

## ミニレポート

## 中央アルプス南部主稜5座縦走

2019年8月12-13日

参加者：L植竹(会員外)、野口、石原

12日 伊奈川ダム発→木曾殿乗越→空木岳→駒峰ヒュッテ

13日 駒峰ヒュッテ→赤椰(なぎ)岳→南駒ヶ岳→仙涯嶺  
一越百山→伊奈川ダム

通常2泊3日の行程を1泊2日で縦走。

行動時間は長かったが、静かで趣ある山域で満足。



南駒ヶ岳から空木岳を望む

## インフォメーション／山行・イベント

### 〈山行委 / 定例山行〉

#### ◆大峰・泣き坂の頭（東大菩薩）

12/14(土) ★★★/★★

自然溢れる急坂。集合 / JR 大月駅 08:00、大月駅=(バス)=上和田→水無山→大峰→泣き坂の頭→大峰→水無山→上和田=(バス)=大月駅、※人数制限あり、ストック必須、歩行時間 / 6時間 35 分、申込 / 比留間祐也、締切 12/4(水)

#### ◆八ヶ岳・ニュー

1/11(土)~12(日) ★★★/★★

雪と森の北八ヶ岳を歩く。集合 / 茅野駅前バス乗り場 09:15、1日目 / 茅野駅=(バス)=渋の湯→黒百合ヒュッテ→ニュー→黒百合ヒュッテ(泊)、2日目 / 黒百合ヒュッテ→高見石→渋の湯(休憩・入浴)=茅野駅、歩行時間 / 1日目約6時間、2日目約4時間、申込 / 佐藤守、締切 12/30(月)

#### ◆霧ヶ峰 2/22(土) ★★★/★★

雪の高原をスノーシューで楽しむ。集合 / JR 分倍河原駅東口、マイカー又はマイクロバス 06:40、JR 分倍河原駅東口=中央自動車道=諏訪 IC=ビーナスライン=車山肩駐車場→車山 1925m→車山乗越→車山湿原→蝶々深山→物見台→八島ヶ原湿原→沢渡→車山肩駐車場=往路を戻る※予備日 2/23(日)、歩行時間 / 6時間、申込 / 小野勝昭、締切 2/15(土)

#### ◆荒船山 3/28(土) ★/★★★

荒海に浮かぶ船のような特異な山容。集合 / JR 立川駅北口・多摩信本店横の公園 06:45、立川=(貸切マイクロバス)=内山峠→鱸岩→経塚山(行塚山)→星尾峠→荒船不動=立川、歩行時間 / 4時間、申込 / 内藤誠之郎、締切 3/21(土)

### 〈第 31 回サテライトサロン立川〉

第5回「先輩の話を聞く会」シリーズ

#### ◆『田邊壽さんの山のスケッチと話を聞く会』

11/11(月)18:30~20:00、  
場所 / 立川女性総合センター 5 階第3学習室、  
参加費 / 200 円、申込 / 中原三佐代  
※会員番号・氏名・終了後の懇親会参加有無を記入  
中原三佐代 : nakahara334ron@gmail.com

(2019年10月11日までに得た情報に基づき編集)

### 〈山行委 / 平日山行〉

#### ◆三国山（富士山周辺）

12/26(木) ★★★/★★

富士山と山中湖を眺めながら静かな樹林帯を歩く。集合 / JR 御殿場駅改札口 08:00、JR 御殿場駅=(バス)=箆坂峠→アザミ平→大洞山→檜木山→三国山→明神山(鉄砲木の頭)→切り通し峠→平野バス停、歩行時間 / 5時間、申込 / 高砂寿一、締切 / 12/12(木)

#### ◆太刀岡山（甲府北部）

1/23(木) ★★★/★★

南アルプスの展望が広がる。集合 / JR 中央線竜王駅前タクシー乗り場 08:30、竜王駅=(タクシー)=下芦沢登山口→山頂→越道峠→下芦沢登山口※軽アイゼン必携、歩行時間 / 約5時間、申込 / 石橋學、締切 1/13(月)

#### ◆大楠山（三浦半島）

2/13(木) ★/★★

三浦半島の最高峰で半島全貌を見る。集合 / 京浜急行安針塚駅改札口 09:20、安針塚駅→塚山公園→本円寺→大楠山登山口バス停→阿部倉温泉分岐→大楠山(昼食)→前田川→前田橋バス停(13:02、13:08 京急バス JR 逗子駅行き)=逗子駅、歩行時間 / 2時間 50 分、申込 / 酒井俊太、締切 2/6(木)

#### ◆セーメーバン（南大菩薩）

3/12(木) ★★★/★★

不思議な山名、セーメーバンを踏みにいく。集合 / 大月駅改札口 08:50、大月駅=(タクシー)=森屋荘→サクラ沢峠→セーメーバン(清明盤)→大岱山→宮地山→宝鐘寺薬師堂=(タクシー)=大月駅、歩行時間 / 5時間 20 分、申込 / 西山さより、締切 3/3(火)

★は「体力 / 危険度」

〈連絡先〉

石橋 學	m.ib@gaea.ocn.ne.jp	090-2670-0895
小野 勝昭	katuaki.ono@gmail.com	090-9014-7251
酒井 俊太	shuntasakai00707@nifty.com	090-9317-4157
佐藤 守	jac13431@sky.plala.or.jp	090-2498-7096
高砂 寿一	toshikazu001@mac.com	090-8053-3040
内藤誠之郎	siro7110@yahoo.co.jp	080-3024-7882
西山さより	okabasaku3911@gmail.com	090-9801-4146
比留間祐也	ftwn270@gmail.com	080-5386-3011

## 会務報告 (詳細は東京多摩支部 HP「会議案内」をご覧ください)

### ■第109回 幹事会報告

日時 2019年7月16日(火) 18:30～20:35

会場 立川女性総合センター 5階 第1会議室

出席者 野口、高橋、武藤、山本、植草、河野、小野、佐藤、中村(敦)、岡田、(監事)小口、小清水(計12名)、欠席者 長瀬、石塚、記録 山本

#### [野口支部長挨拶]

6月22日にJAC通常総会があり、多くの東京多摩支部会員が参加した。10周年記念式典会場のスイングホールの申し込み手続きが完了した。

#### [10周年記念事業「ザンスカール未踏峰登山の概要説明」(北島英明会員)]

10周年記念としてザンスカール地域の未踏峰の下見に9月11～25日に3名の偵察隊を派遣する。本隊は2020年7月18日～8月10日とする。遠征隊員は登山隊員3～5名、サポート隊員5名程度。資金計画は10名の遠征隊として総額3,500,000円(個人負担350,000円/人)。寄付、カンパと補助金等を共同装備購入資金、個人負担金の補填に充てたい。

#### [事務局連絡](山本事務局長)

都岳連関連としてJMSCA主催の夏山リーダー講習会があり青木と内藤が参加した。JMSCAmagazine(公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会機関誌)創刊。山の天気入門講座紹介。本部関連として第4回「山の日記念全国大会Yamanashi」開催予定。

#### [審議事項]

##### 1. 広報委員会の運営体制(野口支部長)

高橋重之委員より体調が悪く広報委員を辞任し、石塚嘉一氏が仕事と家庭の事情から委員長と幹事を辞任したいとの希望があった。野口と山本が石塚氏に翻意を促したが辞任となった。広報委員会は37号までは業務を行う。その後は新たに会報委員会を立ち上げ、当面は野口が委員長を代行する。支部報はメール会員を募集し、ネット印刷し合理化したい。

(武藤幹事長)澤登会員と本間会員も広報委員会を辞任。

#### [委員会報告]

##### 1. 財務委員会(植草委員長)

年会費入金状況 p.24 別表参考。

通常総会の決算案承認を受け、事務所確保資金と周年記念事業資金(66,000円+近藤氏寄付10,000円=76,000円)、合計790,000円の積み立てをした。

##### 2. 総務委員会(武藤委員長)

「納涼ビアパーティー」と「新入会員オリエンテーション」開催予定。8月7日に支部の役員名簿を作成・送付予定。

##### 3. ICT委員会(山本委員長)

HP運営管理、メルマガ「たま便り」配信、システム開発・管理、本部HP内支部ページ管理に分けて、担当者を決めた。

##### 4. 広報委員会(武藤幹事長代読)

たま通信37号を8月7日に発送予定。

##### 5. 山行委員会(小野委員長)

次年度は支部10周年記念懇親山行4月長尾平、10月雲取山の予定があり、オリンピックもあるので定例山行を月2回にすることは難しく、2021年度に先送りする。(野口)7月～9月は宿泊山行の他に日帰り山行を実施してほしい。

##### 6. 自然保護委員会(河野委員長)

里山自然保護活動として数ヶ所見学した。

「御岳山レンゲショウマ観察会」と「富士山自然観察会」を予定。

##### 7. 安全対策委員会(佐藤担当幹事)

登山計画書受理件数 p.24 別表参考

10月2日に青梅警察署山岳救助隊員を講師に「最近の奥多摩山岳遭難事故の実態と事故防止への提言」の講演会を予定。

10月20日に北島委員を講師に登山技術講習会(ロープ使用方法)を予定。

11月以降の予定は111回幹事会報告参考。

##### 8. 奥多摩BC運営委員会(中村担当幹事)

「生ビールを呑んで花火を観よう会」開催予定。

##### 9. 登山教室PT(山本PTリーダー)

第7期初級登山教室6月15日「川苔山」は荒天のため中止し、8月17日に延期。

第8期初級登山教室説明会を8月21日に実施する。金邦夫氏に講師を依頼。初級登山教室からの追加募集で6名が応募、仮申し込み。

##### 10.10周年記念実行委員会PT(高橋PTリーダー) 委員会開催と報告事項なし。

### ■第110回 幹事会報告

日時 2019年8月20日(火) 18:30～20:45

会場 立川女性総合センター 5階 第1会議室

出席者 野口、高橋副、武藤、山本、植草、河野、小野、佐藤、中村(敦子)、岡田、(監事)小口、小清水(計12名)、欠席者 長瀬、石塚、記録 山本

#### [野口支部長挨拶]

7期初級登山教室登山実習(大菩薩嶺)、中級登山教室(劔岳)、延期されていた7期初級登山教室(川苔山)が無事実施された。

#### [事務局連絡](山本事務局長)

都岳連関連として2019年度下期「山の天気入門講座」紹介。支部関連として南関東三支部(埼玉・神奈川・東京多摩)懇親山行開催予定。本部関連として支部合同会議開催予定。

#### [審議事項]

##### 1.10周年記念実行委員会PT(高橋PTリーダー)

記念講演会講師に、幹事挙手によって重廣恒夫氏を選定。

功労賞の対象者は役職在任3期(6年)以上で役職を退任された方と支部に特別に貢献された方とする。記念事業委員会提案の候補者案(13名)について内定。表彰規程案は総務委員会で再検討して次回以降の幹事会で議論する。

記念品については奥多摩の木材を使ったものを検討中。

#### [委員会報告]

##### 1. 財務委員会(植草委員長)

年会費入金状況 p.24 別表参照。

##### 2. 総務委員会(武藤委員長)

会員動向 p.24 別表参照。

「納涼ビアパーティー」と「新入会員オリエンテーション」p.4報告参考。

##### 3. ICT委員会(山本委員長)

ユーザー対応が増えている。

#### 4. 山行委員会（小野委員長）

次年度の山行計画

##### <定例山行>

4月長尾平（周年事業山行）、5月庚申山、6月戸倉三山、7月田代山・帝釈山、8月白砂山、9月槍ヶ岳・王岳

##### <平日山行>

4月箱根湯坂路、5月天城山、6月高尾山、7月興因寺・湯村山、9月奥武蔵丸山  
7月定例山行「栗駒山・焼石岳」の事故報告書は次回提出。

#### 5. 自然保護委員会（河野委員長）

「里山自然保護活動」の候補地として東京都保全地域の「野火止用水歴史環境保全地域」（小平市中島区）に決定。東京都環境局多摩環境事務所と何ができるかを詰める。

「御岳山レンゲショウマ観察会」と「山の上思議発見（富士山・御庭）自然観察会」実施予定。

#### 6. 安全対策委員会（佐藤担当幹事）

登山計画書受理など p.24 別表参考。

安全登山講演会 111 回幹事会報告参考。

#### 7. 奥多摩 BC 運営委員会（中村担当幹事）

「生ビールを呑んで花火を観よう会」p.4 報告参考。

#### 8. 登山教室 PT（山本 PT リーダー）

7月6日（土）登山実習「大岳山」でヒヤリハットがあった。体力的にも問題がある場合は、今後の山行への参加をお断りすることも考慮。

#### 9.10 周年記念事業委員会 PT（高橋リーダー）

111 回幹事会報告参考。

#### 10. 会報委員会（野口支部長）

広報委員会解散のため、自分が会報委員会を立ち上げることになった。編集に携わった方がいたらご紹介いただきたい。

### ■第 111 回 幹事会報告

日時：2019 年 9 月 17 日（火）18:30～20:20

会場：立川女性総合センター 5 階 第 1 会議室

出席者：野口、高橋、武藤、山本、植草、河野、小野、佐藤、中村（幹）、岡田、（監事）小口、小清水（計 12 名）、欠席者：長瀬、石塚、記録 山本  
[野口支部長挨拶]

8月21日に公益法人委員会があり、準会員制度の検討がされた。来年3月に3年を終える準会員は当初の予想より正会員に移行する者が少ない可能性があり、制度の見直しを含めた対策が必要。p.2 参考。

#### [事務局連絡]（山本事務局長）

都岳連関連として「おもしろ地球観察会」「紅葉の三頭山を訪ねて」、指導教室「地図とナビゲーション実技講座」を紹介。支部関連として南関東三支部（埼玉・神奈川・東京多摩）懇親山行申込受付開始した。本部関連として支部合同会議。p.2 参考。支部内検討スケジュール（2020 年度事業計画案・予算案）を確認。

#### [審議事項]

#### 10 周年記念事業委員会 PT（高橋委員長）

記念式典は p.3 参考。記念品は検討中。

#### [委員会報告]

#### 1. 財務委員会（植草委員長）

年会費入金 p.24 別表参考。

#### 2. 総務委員会（武藤委員長）

会員動向 p.24 別表参考。

#### 3. 会報編集委員会（野口委員長）

数名の方に委員として協力してもらえることになった。当初は編集を編集者に依頼する。原稿はなるべく9月中にお願いしたい。

#### 4. ICT 委員会（山本委員長）

ユーザー対応が増えている。

#### 5. 山行委員会（小野委員長）

山行計画は p.21 インフォメーション参考。

焼石岳の事故報告書は確認をとってまとめたい。8月定例の北岳と9月平日の甲州高尾山で事故があり、ヒヤリハット報告書をまとめたい。

（野口）定例山行・平日山行の山はどのように決めているのか。会員の希望を聞いているか。行きたい山の希望についてアンケートしたらどうか。

（小野）アンケートについて委員会で検討する。

#### 6. 自然保護委員会（河野委員長）

里山自然保護活動検討チームが東京都環境局多摩環境事務所にて9月27日に進め方を相談する。

「御岳山レンゲショウマ観察会」「山の不思議発見自然観察会」は p.10、p.11 報告参考。

自然保護講演会「高尾山にも迫りつつあるシカ～シカの食害について～」(麻布大学いのちの博物館 高槻成紀氏)を10月29日立川市女性総合センターで開催予定。

#### 7. 安全対策委員会（佐藤担当幹事）

安全登山講演会開催予定 10月2日（水）「最近の奥多摩山岳遭難事故の実態と事故防止」（講師：青梅警察署山岳救助隊員）。

登山技術講習会開催予定（縦走中のロープ使用方法）10月20日（日）「ロープ結び方、簡易ハーネス作り方、フィックスロープ設置、悪場通過方法、懸垂下降など」（講師：北島英明委員）。

11月以降の予定①11月24日（日）緊急時の現地対応シミュレーション研修。奥多摩消防署と調整中。

② 12月20日（金）緊急時における「遭難対策本部の対応シミュレーション研修。③1月28日、29日で調整。セルフレスキュー講習会（山での食事飲料水等）。④ 3月15日（日）セルフレスキュー講習会（応急手当＋普通救命講習会）奥多摩消防署で実施。

安全登山対策規程・遭難対策要領をまとめており、10月の委員会で検討し、幹事会に提案する予定。

「ヒヤリハット」が多発しているので報告の義務化と情報の共有化を進め、会員の危機意識向上を図る。

#### 8. 奥多摩 BC 運営委員会（中村担当幹事）

「生ビールを呑んで花火を観よう会」p.4 報告参考。

#### 9. 登山教室 PT（山本 PT リーダー）

第7期の第3ステップの受講生は29名で全員が継続受講。

8月21日第8期初級登山教室説明会。参加者30名、受講申込者29名。（初心者受講生24名＋追加受講生5名）。

8月31日～9月1日補習山行「八海山」実施。修了生23名、サポーターとリーダー11名が参加し、不動岳まで全員登頂。次号報告参考。

#### 10.10 周年記念事業委員会 PT（高橋リーダー）

11月6日海外登山説明会時にザンスカール偵察報告をする。

# カレンダー（2019年11月～2020年1月）

日程	山行	イベント
11/ 2	登山教室修了生補習山行(茅ヶ岳)	
11/ 6		10周年記念事業 / 海外登山説明会
11/ 9	7期登山実習「高畑山・倉岳山」	
11/ 9-10	定例山行 / 浅間隠山・鼻曲山	
11/11		サテライトサロン立川「田邊壽さんの山のスケッチと話を聞く会」
11/23	8期登山実習「高川山」	
11/28	平日山行 / 弥三郎岳（羅漢寺山） （甲府北部）	
12/ 7		JAC 年次晚餐会・支部連絡会議
12/11		8期講座「冬の山歩き・装備全般」
12/14		7期講座「冬の山に備える」
12/14	定例山行 / 大峰・泣き坂の頭 （南大菩薩）	
12/26	平日山行 / 三国山（富士山東部）	
1/ 8	自然保護委員会（一般対象） / 高尾山シモバシラ観察会	
1/11	7期登山実習「三ツ峠山」	
1/11-12	定例山行 / 八ヶ岳・ニュー	
1/18		10周年記念式典&講演会
1/23	平日山行 / 太刀岡山（甲府北部）	
1/25	8期登山実習「笹尾根」	

## 会員移動（総務委員会）

	入会	氏名	会員番号	住所
7月	通常会員	森田 経伴	13675	府中市
	準会員	佐藤 文良	A0166	八王子市
	準会員	中島 敦子	A0247	横浜市
	準会員	土田 圭滋	A0249	小平市
8月	準会員	茅野 修一	A0256	杉並区
9月	準会員	今中 尚哉	A0262	立川市

退会 / 広川清二 5796、小澤周一郎 15880、  
森合孝信 13758（以上支部のみ退会）

## 会員動向 6～9月（総務委員会）

(人数/名)

	総会員	通常会員	準会員	会友
6月末日	322	255	66	1
7月末日	323	253	69	1
8月末日	324	252	71	1
9月末日	324	251	72	1

## 編集後記

台風19号による災害は自然の破壊力のすさまじさを改めて痛感させました。多摩支部の会員、関係者の中にも被災された方がいらっしゃるでしょう。被災された方々には心よりお見舞い申し上げますとともに1日も早く復旧されることを祈っております。会報が刷新されました。私たち会報委員会のスタッフにとって初仕事で、皆様にご迷惑をおかけしたかと思えます。印象や感想、ご意見などをお送りいただければ幸いです。（野口いづみ）

## 2019年度会費入金状況（財務委員会）

(人数/名)

	入金者数	未入金者数	備考
6/11	264	59	会費未納3年経過の2名を除籍
6/30	263	50	過年度未入金者4名に請求書送付
7/30	272	50	
8/31	272	51	

## 登山計画書受理・検討業務件数 （安全対策委員会）(件)

月	支部山行	同好会山行	個人山行	合計
6月	6	2	7	15 (前年18)
7月	3	1	10	14 (前年17)
8月	5	2	15	22 (前年16)
4-8月合計	26	7	52	83 (前年105)

## BC利用状況（BC運営委員会）

(人数/名)

	宿泊			日帰り		
	会員	会員外	合計	会員	会員外	合計
6月	0	0	0	0	0	0
7月	3	0	3	0	0	0
8月	8	3	11	16	0	16
9月	0	0	0	0	0	0

会報 **たま** 第38号 2019年11月7日発行  
発行所 公益社団法人日本山岳会東京多摩支部  
〒188-0011 東京都西東京市田無町4-11-11  
kaihou@yahoo.co.jp, izumi\_noguchi@yahoo.co.jp  
発行者・編集人 / 野口いづみ  
@日本山岳会東京多摩支部 2019